

資料・統計

2014年放射線治療の概要

Annual Report of Radiotherapy in 2014

杉田 公 松本 康男 金本 彩恵 佐藤 啓
Tadashi SUGITA, Yasuo MATSUMOTO, Ayae KANEMOTO and Hiraku SATOU

2014年1月から12月の当院放射線治療科における放射線治療業務の概要を報告する。

新患登録者は1,023例で、前年比+29, 2.9%の増加であった。新たに発生した第2癌の再登録腫瘍数を合わせた新登録腫瘍は1,059例であった。更に、既登録者の再診数212件を加え、放射線治療に至らなかった21件と他院への照射紹介への紹介109件を引いて、合計で1,141件の放射線治療を行った。表1.に2014年の新規登録者原発臓器別症例数および年次推移を示した。

特殊治療としては、定位放射線治療は180例に行い、部位別では脳53例、頭頸部12例、肺159例、肝9例であった。強度変調放射線治療 (IMRT) は今年再開し、前立腺癌に対して月1例のペースで12例に施行した。全身照射は8例に行った。

密封小線源治療では、Ir-192高線量率腔内照射あるいは組織内照射は22例に行った。すべて婦人科腫瘍症例で、腔内照射は17例に、組織内照射は5例、腔内照射と組織内照射を組み合わせた所謂ハイブリッド照射は8例に行った。Cs-137針低線量率組織内照射は婦人科癌1例に、I-125シードによる前立腺癌の低線量率組織内照射は23例に行った。Au-198シード治療は数年ぶりに1例に行なった。表2.図1.にこれらの年次推移を示した。

非密封小線源治療では、I-131内服治療を甲状腺癌26例27回とバセドウ病34例に行った。Sr-89静注治療は骨転移6例に7回を行った。

2014年放射線治療装置の更新および増設はなかった。放射線治療医3名、放射線技師11名、物理師1名で治療を行った。

2014年の特記すべき事柄として、まず、強度変調放射線治療 (IMRT) 再開が挙げられる。2014年に行った12例をもって施設基準を満たし、診療報酬の算定が可能な施設として認可された。IMRTは大変な人手と手間のかかる治療法であるため、症例数を維持することができず、いったん取得した施設登録を返

上していたが、体制が整ったため再開し、施設基準を満たした。2015年4月からは登録施設として2週に1例のペースで前立腺癌に対する治療を行っている。他の疾患でも治療と算定は可能ではある。

他に、婦人科領域を中心とした組織内照射が軌道に乗ったこと。それに対して、頭頸部領域の組織内照射の例数が減ったことである。頭頸部領域の組織内照射はCs-137針によるものが主であるが、この針が耐用年数を迎え、高線量率組織内照射による代替がうまくできなかったこと、化学放射線療法も交えた頭頸部外科の頑張り、放射線科医の血を見る治療を嫌う傾向、なども衰退の原因である。これは全国的な事柄である。

2015年にはライナック1台の増設となる。これは機器更新の際に廃棄の方を後伸ばしする便法ではあるが、増設と同等と考えている。高精度治療の症例増加と、他院への放射線治療患者の紹介数の抑制、故障時の患者対応などに威力を発揮すると思われる。

表1 2014年新規登録患者原発臓器別症例数および年次推移

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
脳		14		3	6	17	14	11	14	13	8	12	2	3
口腔・唾液腺		10		10	12	19	10	14	15	10	7	14	5	4
上咽頭		4		3	4	2	26	2	3	4	1	2	1	3
中咽頭		10		8	10	6	11	6	3	9	6	6	3	13
下咽頭		9		10	10	11	26	11	11	10	8	14	11	10
喉頭	25	29	36	24	36	36	26	16	26	15	15	17	16	24
その他		1		9	5	3	11	12	3	3	6	2	2	6
頭頸部合計	66	63	79	64	77	77	66	61	61	51	43	55	38	60
甲状腺		2		13	14	43	19	30	22	36	29	26	15	24
食道	57	60	83	99	71	81	58	73	80	71	79	74	56	55
胃						22	14	18	36	10	19	15	9	14
腸						52	37	48	43	25	23	21	38	35
肝・胆・膵	5	6	6	11	17	21	20	28	30	38	17	13	36	25
消化器合計	82	87	122	141	132	176	129	167	189	144	138	123	139	129
肺	119	148	156	179	216	262	259	262	242	275	273	257	251	246
その他胸郭									4	3	3	1	3	3
乳腺	83	102	114	125	98	145	232	187	203	208	241	244	205	184
女性性器	14	24	42	38	46	54	74	88	76	47	46	42	41	58
前立腺		50		91	137	101	122	120	131	172	191	167	168	170
他泌尿器系		15		13	33	37	35	47	8	26	34	45	38	41
リンパ腫						34	37	23	24	32	30	32	32	25
他造血器						22	14	10	9	17	13	6	11	11
皮膚・軟部・骨		6		14	24	18	17	19	15	18	15	28	15	19
原発不明・他						23	19	12	19	15	18	12	14	18
良性・パセドウ				7	5	12	9	16	13	10	19	28	25	32
合計	476	568	734	726	851	1021	1046	1053	1049	1067	1101	1077	994	1023

表2 密封小線源治療症例数の推移

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
Ir-192 高線量率治療	婦人科癌	4	9	18	15	23	28	36	48	43	23	24	20	30
	肺癌食道癌他	12	6	3	6	3	1							
Cs-137 低線量率治療	舌癌口腔癌	2	1	3	4	5	6	4	5	3	1	1	1	0
	陰癌・陰再発	0	0	1	2	1	3	3	4	3	3	3	2	1
イリジウムワイヤー		1	1											
I-125シード前立腺癌										13	17	19	22	19
Au-198 シード										0	0	0	0	1

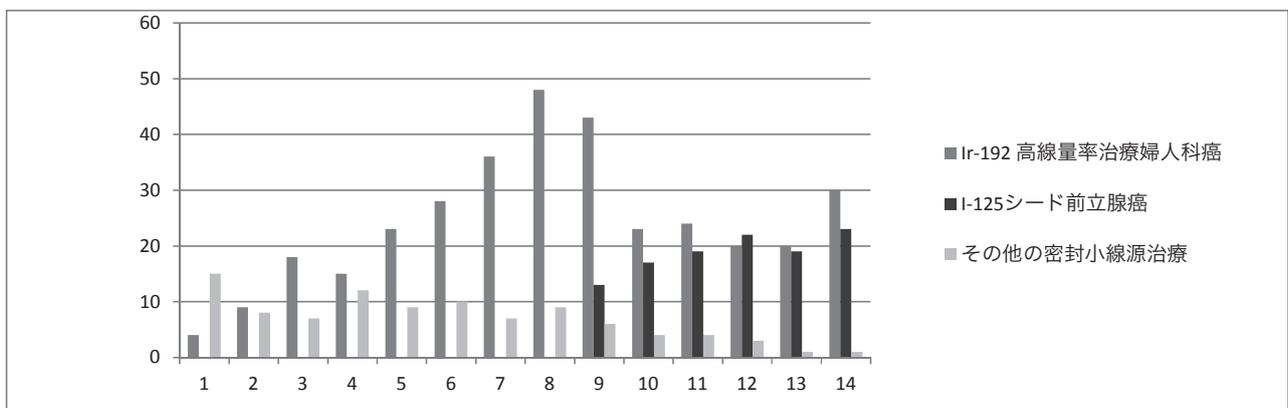


図1 密封小線源治療症例数の年次推移